87 市を代表する観光名所

恵那峡（えなきょう）

「電力王」福沢桃介（ふくざわももすけ）によって木曽川の急流をせき止めて造り上げられた大井ダムによって出来た人造湖。大井ダムから上流約10キロメートルの区域を指し、1920（大正9）年に地理学者の志賀重昂（しがしげたか）によって恵那峡と命名された。両岸には、屏風岩（びょうぶ）、軍艦岩、品の字岩、獅子岩（しし）などの奇岩・怪石が立ち並び、それらを遊覧船から眺めることもできる景勝地。また、春にはサクラをはじめ、ツツジやフジの花も美しく咲く。夏には濃緑に赤い恵那峡大橋が映え、秋には、モミジ、カエデなどが湖面を彩る。冬にはオシドリやムクドリなどが飛来し、バードウオッチングもできるなど、季節ごとにさまざまな景色が楽しめる。市内に2ヵ所ある県立自然公園の一つ。

恵那峡

ひとくちメモ

恵那峡へは、北原白秋、若山牧水など多くの文人が訪れている。特に白秋は、何度も恵那に足を運び、1934（昭和9）年来遊の折には、恵那峡とんとん節や大井栄舞を作詞した。さざなみ公園の先端には歌碑も残されている。

関連項目
・福沢桃介（P14）・大井ダム（P42）・恵那峡温泉（P46）
・傘岩（P47）・映画「青い山脈」（P52）

88 自然の妙を感じる奇岩

傘岩（かさいわ）

傘岩は、恵那峡公園内の林間の小道沿いにある。岩は黒雲母花崗岩（くろうんもかこうがん）からなり、高さ約4.5メートル、幅は最も広いところで約3.3メートル、狭いところでは数十センチと傘を開いたような形をしていることから傘岩といわれている。しかし、「傘」というよりはむしろ「きのこ」に似た形をした奇岩。長年の雨水の浸食や風化が特異な形で進行した例であり、柔らかい部分がくびれ、現在の姿になったといわれている。岩の風化現象を示す貴重な標本。1934（昭和9）年に国の天然記念物に指定された。恵那峡の両岸には巨岩、奇岩が連なり、独特の景観をつくっているが、この傘岩もここを訪れる観光客の目を楽しませている。周りにはモミジが植えられており、秋には紅葉も美しい。

傘岩

ひとくちメモ

恵那峡のシンボルともいえる傘岩は、遠くからでもよく見えることから、古くから旅人の目印となっていた。

関連項目
・恵那峡（P47）

89 県下3番目の重伝建

岩村本通り

岩村町の本通りは、1998（平成10）年に商家の町並みとして、県内で3番目、全国では48番目に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。安土桃山時代から江戸時代初めに、岩村川の南に形成されて以来四百数十年の歴史を持つ旧城下町。明治維新後は岩村電気軌道の開通などにより、物資の集散地として栄えた。東西の延長が約1.3キロメートル、面積は約14.6ヘクタールの東西に長い範囲が保存地区。ほぼ中央に位置する枡形より東側が江戸時代に栄えた商家町、西側は主に明治維新後に栄えた商店街。比較的軒の低い「厨子二階」といわれる造りが多いのが特徴で、木村邸・土佐屋・鉄砲鍛冶など、数多くの旧家が現存。歴史的環境を良好に保存している。現在、電線類の地中化などによるまちづくり事業が、平成24年度の完成予定で進められている。

岩村本通り。奥の山が岩村城跡のある城山

ひとくちメモ

間口の広さで課税されていたため、間口が狭く南北に細長い敷地割りが多い。また、「天正疎水」と言われる用水が各家の軒下や中庭を通り、生活用水や防火用水として利用されていた。この地区は、主に地区住民の協力により保存されている。

関連項目
・岩村城跡（P6）・岩村電気軌道（P9）・浅見与一右衛門（P12）
・岩村町秋祭行事（P21）・カステーラ（P41）

90 農村景観日本一

富田地区の農村景観

岩村町富田地区の田園風景の農村景観日本一は、1989（平成元）年に国土問題研究会（理事長木村春彦・京都教育大学名誉教授）からの称号。マスコミが一斉に報道したことで一躍脚光を浴びた。この景観は、岩村城跡のある城山や田園を潤す水晶山・三森山などの山並みを背景として、東から西に少し傾斜した盆地の中に、広葉樹や針葉樹の森、瓦と白壁の昔ながらの農家や土蔵、寺院や神社などが水田の中に程よく配置。古く美しい日本の農村景観を残しており、ふるさとの素朴な風景が鑑賞できる。秋の収穫期には、黄金色に染まった田園を舞台とした「秋の月待ちお堂めぐり」が開催される。

富田地区の農村景観

ひとくちメモ

富田地区はかつて鎌倉・室町の中世と言われる時代に、岩村城の城下町があった地域。1573（天正元）年、岩村城は、武田信玄の家臣で武田二十四将の一人、秋山信友に攻められ、富田地区にあった城下町は焼かれたといわれている。

関連項目
・岩村城跡（P6）

91 県下初の風力発電所

上矢作風力発電所

上矢作町大船山の標高1,100㍍の高台にある大船牧場に、県下初の風力発電所として2007（平成19）年に運用を開始。風車はドイツ／エネルコン社製の600㌔㍗が6基と、800㌔㍗が7基の計13基を設置し、最大出力は9,200㌔㍗。風力発電は二酸化炭素の排出が極めて少なく、世界的にも積極的な利用が進められている地球温暖化防止対策に有効なクリーンエネルギー。さわやかな風が渡る森林の中で、ゆっくりと回る巨大な風車は、訪れる人々に感動を与える。市ではこのエリアを「風の森」として、展望台や遊歩道などを整備し、地域間交流の場を目指している。

大船山頂に風車が並ぶ

ひとくちメモ

日本では標高の高い場所での風力発電所は少なく、ここの発電所は日本ではかなり高所にあるもの。天気のいい日に展望台からの眺望は素晴らしく、夏季の高原独特の涼しさは格別。

関連項目
・弁慶スギ（P33）　・アライダシ自然観察教育林（P35）
・大船神社と松並木（P49）

92 日本名松百選

大船神社と松並木

大船神社は、上矢作町大船山の標高1,060㍍に位置し、1856（安政3）年の神社改築の折に彫られた本殿の彫刻は県の重要文化財に指定されている。この彫刻は、立川和四郎富重の作で、本殿正面が唐獅子、波、牡丹をくわえる唐獅子など。脇障子は、雲の中の鳳、狂獅子などで写実的に表現されている。また大船神社に至る参道には、約300本のアカマツの巨木が約4㌔㍍にわたって立ち並び、1983（昭和58）年、「日本名松百選」に選ばれた。樹種はアカマツで、樹齢は推定230年。また、大船神社の境内には県指定天然記念物の弁慶スギもある。また、近年大船神社はパーワースポットとして注目を浴びており、険しい山奥にあるため訪れる人も少なく、穴場的な場所として紹介されている。

大船神社

ひとくちメモ

書物によれば、大船神社の前身は勝岳山大船寺という寺院で、765～767年（天平神護年間）に奈良東大寺の初代別当良弁が開いたと伝える古い寺であった。その後、明治の神仏分離令により、山中の六社権現が残って現在の大船神社になったという。

関連項目
・弁慶スギ（P33）　・アライダシ自然観察教育林（P35）
・上矢作風力発電所（P49）

93 まち全体が大正博物館

日本大正村

明智町の市街地に残る大正モダンな建物や、大正時代の文化から日常生活までの歴史資料を、まち全体で展示している全国唯一の博物館。観光客のガイドやイベントの開催、主要施設の運営までボランティアで取り組んでいるのが特徴。文芸写真家の故澤田正春らの発案で、1988（昭和63）年に開村式を実施。初代村長は高峰三枝子、二代目の現村長は司葉子が就任。村内には、文化庁の登録有形文化財である大正村役場や元銀行蔵の大正村資料館、蔵の並ぶ大正路地などあり、郷土出身の画家山本芳翠の油絵のある大正ロマン館も人気。2011（平成23）年には「大正百年祭」が開催されている。

大正村役場

ひとくちメモ

大正ロマン館からの景色もよいが、まち外れの高台にある千畳敷公園からの眺望は格別。日本大正村は物質的なものより精神的な要素が強く、究極の目的は日本中の人たちが大正時代をしのぶメッカとなること。

関連項目

・山本芳翠（P12）・司葉子（P16）
・光秀まつり（P23）・映画「青い山脈」（P52）

94 日本の棚田百選

坂折棚田

中野方町坂折地区の棚田は、今から400年ほど前から築かれ始め、明治時代初期にはほぼ現在の姿を形成。全国でも有数の美しい景色が評価され、1999（平成11）年には農林水産省の「日本の棚田百選」に認定された。急傾斜地の水田のほとんどを、一つ一つの石で積んである石積みのあぜが特徴。その中には黒鍬と呼ばれる専門の石工集団によって、築かれたと伝えられる美しい石積みが数多く残る。棚田の環境保全を目的として、地元住民らで発足したＮＰＯ法人恵那市坂折棚田保存会の活動では、棚田米による日本酒造りや棚田オーナー制度による体験農業などにより、地域農業の活性化を推進中。

秋の実りの坂折棚田・特徴でもある石積みのあぜ

ひとくちメモ

2003（平成15）年に開催した第9回全国棚田（千枚田）サミットを契機に、坂折棚田へ訪れる人が増加。また失われつつある石積みの技術と景観を、後世へ残すという目的で、石積み名人から工法を学び体験する坂折棚田石積み塾を開催している。

関連項目

95 数多くの伝説が残る山

笠置山（かさぎやま）

市の北部に位置し、笠置町、中野方町と中津川市蛭川にまたがる標高1,128㍍の山。恵那山とともに、東濃の名山として古くから親しまれてきた。10世紀後半に在位した花山（かざん）天皇が京都の笠置山に似ているといわれたことから、その名前が付いたと伝えられている。登山道が整備されており、気軽に登ることができる。山頂の笠置神社には雨乞いの神でもある笠置大権現が祭ってある。頂上付近にある物見岩からは恵那、中津川が一望できる。また、ヒトツバタゴ、ヒカリゴケといった天然記念物や、超古代の遺跡、文化財などがある。近年、山中にある巨岩を生かしたボルダリング（フリークライミングの一種で、ロープや道具を使うことなく手足だけで巨岩や壁をよじ登るスポーツ）の名所として注目を浴びている。

笠置山

ひとくちメモ

笠置山山頂の笠置神社社殿裏側のがけ下には、灰白緑色したヒカリゴケがある。このヒカリゴケは、レンズ状の細胞に入る光を屈折して反射するため、ヒカリゴケと呼ばれ、県の天然記念物に指定されている。

関連項目
・ペトログラフ・イワクラ（P4）　・ヒトツバタゴ（P35）
・笠置ダム（P42）・笠置山クライミングエリア（P51）

96 日本有数の岩登りエリア

笠置山クライミングエリア（かさぎやま）

市の北部に位置する標高1,128㍍の笠置山の中腹に2009（平成21）年6月にクライミングエリアがオープンした。クライミングとは岩登りのことをいう。笠置山は「ボルダリング」といわれる比較的低い岩（2～4㍍くらい）をロープなどの補助なしで登るスポーツに適している。世界トップクラスの実力を持つ有名なプロクライマーの小山田大（こやまだだい）氏もこの笠置山クライミングエリアを高く評価。約120個ある岩のうちには、国内最難課題のひとつなど、高難易度から初心者向けの岩まであり、幅広いクライマーが笠置山を訪れている。笠置地区では、地域活性化のための資源として今後もエリアを拡大し日本一のエリアを目指している。

岩をよじ登るクライマー

ひとくちメモ

プロクライマーがエリアの開拓とルート設定を行い、地域では「笠置山クライミング協会」を立ち上げ、案内看板やトイレの設置、駐車場整備などエリアの整備を行った。
ボルダリングは自然の中で、自分の力を試せるスポーツ。笠置山の自然の中で岩と格闘してみては。

関連項目
・笠置山（P51）

97 市民の心のよりどころ

映画「青い山脈」

1957（昭和32）年、恵那市と中津川市でロケーションが行われた東宝映画。原作は石坂洋次郎、監督は松林宗恵。俳優は、現大正村村長の司葉子（島崎雪子役）や宝田明、雪村いづみ、久保明などが来市した。恵那高等学校や恵那峡、大井橋辺りの阿木川のほとり、中央通りなどでロケーションが行われた。多くの市民もエキストラや裏方のお手伝いとして映画づくりに参加し、その体験がその後主題歌の「青い山脈」とともに市民の心のよりどころになった。「青い山脈」は、過去5回も映画化されており、恵那でロケされた映画は、2度目のもの。「新子の巻」と「雪子の巻」の前後編に分かれている。

「青い山脈」のロケ（右手前が司葉子）

ひとくちメモ

後に来市した松林監督は、「全国でロケ地を探したが、中央線の槙ヶ根トンネルを出て、パッと広がる美しい山並みを目にしたとき、ここしかないと思った」と語った。そして、その感動が映画冒頭のシーンに使われた。

関連項目

・司葉子（P16）・恵那峡（P47）
・日本大正村（P50）

98 映画づくりで「心の合併」

映画「ふるさとがえり」

「映画づくりを通してまちを元気にしたい」そんな思いで始まった市民を中心とした団体・えな「心の合併」プロジェクトが製作した映画。2010（平成22）年に市内全地域をロケ地として、資金集め、製作スタッフなどほとんどの作業を多くの市民の参加、協力のもとで撮影された。監督は林弘樹、俳優は、主演の渋江譲二をはじめ、佐藤仁美、高畑淳子、村田雄浩など有名俳優人がプロジェクトの趣旨に賛同して出演した。

物語は、映画の助監督をしている主人公の勘治の志半ばとなった少年時代の夢と、20年後の田舎の現実が交錯しながら進む。そして、ふるさとへの愛情と葛藤の中から、誰でもが持つふるさとへの思い、郷土を愛する心を描く。

上映は、恵那市内13地域のロードショーを皮切りに、全国に向かって恵那市を情報発信する。

「ふるさとがえり」のロケ。棚田の風景も後世に残ります。

ひとくちメモ

この映画には市内の消防署、消防団が全面的に協力。延べ約1,300人の消防団員が参加したほか、エキストラや食事の手配など多くの市民ボランティアが裏方として撮影現場を支えた。

関連項目

99 大パノラマが展開

東濃牧場

とう のう ぼく じょう

長島町、岩村町、山岡町にまたがる㈳岐阜県畜産公社が経営する県営牧場。1973（昭和48）年に開場。標高630㍍から710㍍の高原にあるため、はるかに御嶽山や恵那山、そして中央アルプスを望み、眼下には阿木川ダム湖や岩村町富田地区の田園風景も見ることができる。360度の大パノラマが魅力で、ピクニックなどにもお薦めのスポット。牧草地210㌶に、約700頭を飼育する酪農振興の拠点で、主にホルスタイン乳牛の育成や、農家で生まれた和牛子牛の肥育、夏場の放牧などを行っている。また、岐阜県で唯一「酪農教育ファーム」の認証を受け、牧場を教育の場として開放し、子どもたちが酪農体験を通じて「食や命の大切さ」を学んでいる。

東濃牧場

ひとくちメモ

春には岩村町方面からの道でサクラが満開となり、訪れる人も多い。場内にある「東濃まきば館」には、ソフトクリームやステーキもあり、予約すれば野外でのバーベキューやアイスクリーム手作り体験も可能。ただし、東濃まきば館の営業は冬期休業なので要注意。

関連項目
・阿木川ダム（P43）

100 私だけのとっておき

私のえな自慢

わたし じ まん

最後は、あなたが選ぶえな自慢。これまで紹介してきた 99 項目にはない、これだけは外せないというあなただけのとっておきのえな自慢を教えてください。

ひとくちメモ